

【発行年月日】平成31年2月1日

【発行責任者】岡山県老人福祉施設協議会 会長 小泉 立志
【事務局連絡先】
〒700-0807 岡山県岡山市北区南方2丁目13-1
きらめきプラザ内
TEL.086-226-3529 FAX.086-227-3566
URL <http://www.okayama-roushikyo.jp/>

岡山県老人福祉施設協議会 情報誌

B-OK!

ばっけえ

「ばっけえ」とは岡山弁で“とても”を意味する言葉です。

Vol.5



広報誌『B-OK!』の発行も今回で5回目!!

定番の『福祉の職場 見学・体験ツアー』や『第3回 カイゴ男子・カイゴ女子発掘プロジェクト』も
ますますパワーアップしました。

7月の豪雨災害特集『ご利用者101名の「命」をつなぐ』と『地域のために立ち上がる』は必見です(^^)

「ん~つ！」
特別養護老人ホームのぞみ荘(倉敷市)

1stインプレッション!



2ndインプレッション!



オープニング!

司会は岡山県住みます芸人の江西あきよしさん！
岡山で活躍中の「DANCE BB」の皆さんによるキュートで迫力あるダンスでスタートです！



ユニフォーム姿で介護の魅力を発信!
巨大スクリーンを通して館内にも発信です！

おかやま
介護フェア
2018

第3回 カイゴ カイゴ 男子・女子 发掘 プロジェクト

2018年10月13日
「イオンモール岡山 未来スクエア」

今回で3回目となる本プロジェクト、今回はより多くの業界団体と共に、より大きなイベントとして開催しました！

介護現場で「喜び」「やりがい」「熱心さ」を持って働き、プライベートでも輝いている介護職員を募集し、書類審査を通過したカイゴ男子＆カイゴ女子が、自身の魅力や介護の仕事に対する想いを個性豊かに表現しました。

当日の動画は、本会ホームページにてご覧いただけます！



事前審査

多数の応募の中から厳正に審査し選出しました。

記者会見

多くの報道機関の方の前で意気込みを披露！

カイゴインプレッション!

プロの講師より、ポージングから表情まで指導していただきました！
慣れない動きやポーズに果敢に挑戦です！

ステージ出展



認知症VR体験も含め、
オール岡山で会場は活気に包まれました！

吉永拓未 ライブ！

音楽を通して岡山県のPR活動を全国に発信中！
透明感ある歌声で会場を盛り上げて下さいました！



グランプリ、準グラン
プリ決定！
プロジェクト初のWE
B投票も交えての審査
結果に会場は興奮と感
動に包まれました。

グランプリ
¥50,000
カイゴ男子・カイゴ女子
発掘プロジェクト

「おかやま介護フェア2018」

主催／岡山県・岡山県老人福祉施設協議会・岡山県介護福祉士会・岡山県社会福祉士会
岡山県介護福祉士養成校・岡山県老人保健施設協会・岡山県社会福祉協議会
協力／オージー技研株式会社・株式会社トコボ



福祉の職場 見学・体験ツアー

フォロー事業記事

夏休み期間中、岡山県内、特別養護老人ホーム及び養護老人ホーム(6事業所)で福祉の職場見学・体験ツアー(フォロー事業)を行いました。

県内の小中学生・保護者 総勢31名の参加しました。食事や入浴体験・高齢者の疑似体験・利用者と一緒に絵手紙作成やおやつ作りなどの創作活動やレクリエーション、消防署員によるAED体験や、各施設での取組内容など盛りだくさんの内容でした。

中には川崎医療短期大学の見学や、就労支援事業所との交流など各施設趣向を凝らした内容で、参加した小中学生は興味津々、様々な発見があったと思います。

この機会を通じて、福祉に少しでも興味をもってもらい、1人でも将来の人生設計に「福祉」を取り入れられることを願っています。

2019年度

**参加者及び
参加事業所
募集 !!**

※詳細は、2019年度に県老施協ホームページ等にて案内します。

体験施設：参加者 2018年度 実績

シリバーセンター セレーノ総社	小学生1名+保護者1名
特別養護老人ホーム のぞみ荘	小中学生4名+保護者3名
特別養護老人ホーム 山陽寿荘	小学生3名+保護者5名
養護老人ホーム 松風園	小学生2名+保護者2名
特別養護老人ホーム 高瀬ビルサイドテラス	小学生1名+保護者1名
特別養護老人ホーム 高寿園	小学生7名+保護者1名

『ご利用者101名の「命」をつなぐ』

7月5日台風7号が上陸、前線と相まって降りしきる雨は止むことがなく嫌な予感を感じさせた。7月6日13時に避難指示発令とともにご利用者を大ホール及び食堂へ移動、厳戒態勢で待機を続けた。同20時30分には国道180号線の冠水を確認、同21時には作原地区の浸水を確認、施設は陸の孤島と化した。翌7日0時過ぎには平屋入居棟の床上約40cmまで浸水、未明にライフラインは全てダウンした。宿直者が機転を利かせポータブル自家発電機を使用し電動ベッドを全て最高位まで上げていたことが幸いし、ギリギリのところでベッド上までの浸水は避けることが出来た。同日夕刻には施設を襲った泥水は引いたが、電力の復旧はすぐには不可能なことが予想された。つまり冷房が効かない状態となることだ。二次被害としての熱中症が心配されたため、19時42分にご利用者全員を他の施設へ避難させることを決断、スマホアプリ「Line」で救援を求めた。県経営青年会のグレーブラインで発信、その情報は県老施協にも伝達された。以後ご利用者の状態を伝達するための諸書類の準備、ご利用者の移動先の振り分けを行う。翌8日午前中に県経営協・老施協の正副会長による合同会議が開催され、老施協の正副会長により受入施設の選定が行われた。同日午後からご利用者の大移動が始まる。移動1日目は59名の送り出しを終えた。翌9日にはさらに暑さが増すとの予報もあったため、500mのペットボトルの水を凍らせて出来るだけ多く持ってきて欲しいと依頼、

9日朝には多くの凍ったペットボトルが届き、後頭部・腋下・鼠蹊部に当てて迎えを待った。被災から2日半が経過していたが残り42名のご利用者の様態に大きな変化はなく、再び大移動の開始だ。同日1人の犠牲者を出すことなく移動を完了した。

携帯電話の電波塔も被災し電話が通じづらくなった中で活躍したのは普段からのネットワークとLineアプリだ。さらに早い段階で事務局を県社協に一元化し情報を集約したことも混乱を最低限に抑えた重要な要因であると思う。

発信したSOSに迅速に呼応していただいた県経営協及び老施協、実動部隊としての21世紀委員会、また受入をして下さった24の施設（3病院を含む）には感謝以外の言葉が見つからない。

特別養護老人ホームさくばらホーム
ホーム長 櫻井 浩之



ぼつけえ **B-OK!** 特集 7月豪雨災害



『地域のために立ち上がる』

7月6日(金)22:00、真備町全域に避難勧告が発令された。

「避難勧告が発令されたら後楽へ避難させてほしい」当日の夕方までは母体施設のシルバーセンター後楽と意思疎通が取れていた。

悠楽と後楽は車で5分程度のほど近い距離。それも同一法人である故、安心して避難できる場所としてこれ以上ない恵まれた環境だった。

避難活動開始から間もなく、後楽より多くのスタッフが避難用車両と一緒に駆けつけてくれ、降りしきる激しい雨の中、不安な気持ちで避難活動をしていた我々にとって強力な援軍だった。避難活動開始から1時間少々で入居者、ショートステイ利用者合わせて37名の方は後楽へ無事避難することができた。

悔やまれるのは浸水に備えて施設に残って作業をしてくれていた24名の職員を逃げ遅れてしまい危険にさらしてしまったことである。上昇し続ける水位と猛烈な勢いで流れる濁流に成すすべなく、施設の屋上で18時間も過ごせてしまったことは大きな反省点だった。『ここは晴れの国、おかやま。自分は絶対に大丈夫』という潜在的な意識が自分の中の危機意識に緩みを生じさせていたのだと思う。全員が無事に救出されたことで事なきを得たが、この苦い経験を今後の災害対策に役立ていかなければならない。

また、被災直後の7月11日、12日の2日間で延べ110名を超える大勢のボランティアの方々が施設の片付けに来てくれた。「頑張ってください。」「一日でも早く元の姿を取り戻してください。」酷暑の中、汗と泥にまみれながらも温かい言葉を投げかけてくれた多くの仲間には本当に頭が下がった。

多くの方に支えていただき、昨年の12月10日よりデイサービスが先行して再開、1月17日には特養、ショートも再開することで施設全体が完全復旧することができた。真備町が元気を取り戻すためにも職員一丸となり力強く歩み続けていきたい。

地域密着型特別養護老人ホーム クレールエステート悠楽
施設長 岸本 祥一



災害派遣福祉チーム(岡山DWAT)活動報告

西日本豪雨災害により、真備地区に大きな被害があり、岡山DWATが活動展開し、避難されている方の状況把握、仮設(段ボール)ベッドの組み立て、日々の様子伺い等、状況に応じ医療や行政チームにつなげるなどの活動を行いました。

県老施協としても会員施設から職員の派遣という形で協力をしました。

DWATメンバーとして活動した、会員施設の職員の感想です。

避難されている方の生活は時間が経過するにつれ、不安や悩みも変化していくように感じます。それに応じ我々の活動も大きく変化してきました。

被災された方たちは本当につらい思いをし、また今後への不安を抱えられている方ばかりだったとは思いますが、ボランティア活動している我々にも暖かい言葉掛けをして下さっていたことが本当に印象的でした。

本当に入れ代わり立ち代わりで、全国から多くのボランティア(団体)が出入りしていました。全国の政令指定都市や東京からも練馬区など、行政区ごとに多くの行政関係のボランティアもありました。この辺り、個人的には感動しました。



「輝くkaigoの人達 写真パネル展」

福祉・介護サービスの理解を一層深めるための普及啓発及び福祉人材の確保・定着を促進することを目的として、介護の現場で働いている職員に焦点を当てた写真展を開催しています。「B－OK！」の表紙を飾っているのも応募写真のうちの1枚です。

この1年間では下記の機会・場所で展示を行いました。

平成30年3月5日(月)～3月9日(金) 総社市役所 本庁舎1階

平成30年4月16日(月)～4月27日(金) 岡山県庁 1階県民室

平成30年10月13日(土)「おかやま介護フェア2018」

(イオンモール岡山 未来スクエア)

平成30年11月5日(月)～11月9日(金) 岡山県庁 1階県民室

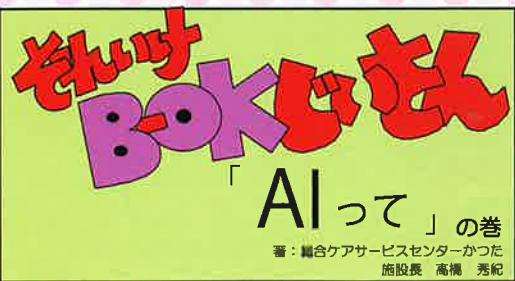
平成31年1月28日(月)～2月8日(金) 岡山市南区役所 1階市民ホール

平成31年2月19日(火) 第45回岡山県老人福祉施設職員研究発表会

(岡山コンベンションセンター)

写真にはQRコードも添えられていて各施設のホームページにリンクするようになっています。

これからもこの展示を通して介護の仕事の魅力をひとりでも多くの方に伝えたいと考えていますので、展示希望等あれば岡山県老人福祉施設協議会までご依頼ください。



あとがき

2018年は7月の豪雨災害によって大変な一年となりましたが会員相互や地域との【絆】を強く感じることもできた一年でした。

この【絆】を大切に、引き続き介護(福祉)の魅力を発信して参ります。
じゃあ、またあした!!